



ROTARIANS  
UNITED IN SERVICE  
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン  
奉仕に結束  
平和に献身



会長 吉野 勲 幹事 板垣広志 クラブ奉仕 高橋良士 職業奉仕 飯野準治 社会奉仕 佐藤元伸 国際奉仕 阿蘇司朗 青少年奉仕 菅原辰吉

出席報告: 会員 82 名 出席 60 名 出席率 76.12% 前回出席率 77.27% 修正出席 66 名 確定出席率 86.36%

会 長 報 告

吉野 勲 君

吾々鶴岡R.Cが昭和34年6月に産声をあげ誕生して以来、来年度で30周年になるわけですが、本日は創立記念日をお祝いし、会員の皆様と共に今後益々の発展を期して参りたいと存じます。お祝いのしるしとして紅白のもちを配布致しました。

続いて、本日午前11時半より理事会を開催いたしました。ご報告申し上げます。

年度を振り返ってみて、役員・理事の方々この一年本当にご苦勞様でございました。厚くお礼を申し上げます。

次に、次年度は当クラブより分区代理として新穂光一郎君が就任いたすわけですので、当クラブがホストでI.G.Fを開催することになるわけです。

I.G.Fの役員もこれから決定することと思いますが、会員皆様と力を合せて成功していただきたいと存じます。

職業分類の損害保険の欄に積立保険を新設することに決定いたしました。これは、会員増強委員長佐藤衛君より提出され、職業分類委員長佐藤友吉君の承認を得た議案でありまして、本日の理事会で決定いたしました。

幹 事 報 告

板垣広志君

○例会日時・場所変更のお知らせ

・鶴岡西R.C 座禪会のため

日 時 6月10日 午前6時30分点鐘

場 所 善 宝 寺

登録料 1,500円

・酒田中央R.C 公式訪問のため

日 時 6月28日(火) P.M12時30分点鐘

場 所 ホテル リッチ酒田

会 費 1,500円

○会報到着 鹿児島西R.C、鶴岡西R.C、東京R.C

新 会 員 紹 介

三井 健君

1. 氏 名 小松 稔君
2. 生年月日 昭和17年8月21日
3. 自 宅 鶴岡市神明町8-48
4. 職 業 株式会社マルトミ代表取締役
5. 家族構成 妻 小松 恵子 様  
長女 小松 知子 様  
次女 小松 伸子 様
6. 略 歴 明治大学卒業
7. 趣 味 スポーツ、マージャン

新 会 員 挨 拶

小松 稔君



小松と申します。よろしくお願ひします。亡き親爺が皆様には大変お世話になりました。亡き親爺同様という型通りの挨拶となりますが、私は私なりに、いつまでも三井様の陰にかくれてとはなりませんので

うから、精一杯いろんな事をやらせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

## 出席委員会

佐々木喆彦 君

### ○年間皆出席

17年間皆出席 市川輝雄君

12年間皆出席 丹下誠四郎君

3年間皆出席 高橋良士君

2年間皆出席 若生恒吉君

1年間皆出席 荘司俊治君

### ○5月100%以上出席 6名

175% 張

125% 石川(寿)・市川・迎田・佐藤(昇)・  
新穂

### ○5月100%出席 45名

阿蘇・藤川・布施・秋野(昭)・石井・石黒・  
板垣(俊)・板垣(広)・飯野・風間・加藤・  
三井(健)・毛呂・松田・皆川・中江・中沢・  
斎藤(隆)・笹原(桂)・佐藤(忠)・佐藤(順)・  
佐藤(衛)・佐藤(友)・菅原・鈴木(善)・鈴木(弥)・  
荘司・関原・佐々木・斎藤(昭)・高橋・丹下・  
鈴木(肇)・杉澤・塚原・忠鉢・田中・松沢・  
碓氷・若生・山口・吉野・矢部・笹原(信)・  
日向

## 親睦活動委員会

丹下誠四郎 君

### ○6月会員誕生

石黒慶之助君・布施隆夫君

高田耕助君・石川一男君

秋野昭三君・田中錦造君

張紹淵君・高橋良士君

### ○6月奥様誕生

斎藤美代子様・斎藤和様

川上朱美様・日向京子様

松沢信子様・杉澤多喜子様

### ◆スマイル

三井健君 小松君の入会をお祝いで。

小松稔君 入会をよろしく。

高橋良士君 荘内日報の取材に感謝。又、毎日新聞、TBSで紹介され、少しでも子供の胃潰瘍にお役に立てばと思います。

吉野勲君 第3代目木村屋の社長になりました。又、今日創立記念日のお祝いに木村屋のお菓子を採用していただきました。小松君の入会を歓迎します。

杉沢保吉君 東北電力グループで5月30日～6月8日まで「ふれあいさわやか」のテーマで、春のサービス旬間を実施。又、6月1日四国で日本電気協会の総会に出席しました。交通公社の松沢さんに旅行の手配に深謝。

松沢主一君 只今杉沢さんから感謝されました。瀬戸大橋の大イベントですが、支店でも4月から6月までお陰様で400名の方々をご案内できました。

## 創立30周年記念事業委員会より経過報告とお願い

委員長 風間真一君

3月8日の例会に於いて、記念事業についての63年1月5日以来の検討状況をご報告して、記念事業委員会としては西郷南洲先生の「敬天愛人」の書を石碑としてタブの木のとこりに建てるのがほぼ方向づけられたものと理解してお話致しました。ところが、これは私の早合点で「書」を提供される側では、設置場所を市役所構内に限るとのお考えである

ことがわかり、その後市当局に対して市構内への設置を再三にわたってお願い致したのですが、結局了承を得ることが出来ず、5月19日市当局からの最終的的回答により、この計画はご破算にせざるを得なくなったようなわけで、従に時間を経過し、結局このような結果になりましたことは誠に申し訳なく、心からお詫び申し上げます。

5月31日例会後、委員会に於て経果の報告と今後の進め方を話し合いました。出発点に戻ってアンケートにより会員各位のご意見を集約することになりましたが、委員会としては、委員各位にアンケートの内容となるべき記念事業案を6月21日までにメモ

により私まで出して頂くようお願いしてありますので、会員各位の中にご意見、アイデアをお持ちの方は、その時までと同様にお出し頂くようお願い致します。それ等のご意見によりましてアンケートを作成致しますので、ご協力をお願い申し上げます。

## 会員スピーチ

### 創立記念日にちなんで

佐々木 喆 彦 君



6月9日は、鶴岡ロータリークラブの創立記念日です。これまでの例によれば創立記念日のスピーチは、先輩のロータリー歴の長い会員がされていたように思われます。

今日も本当は大先輩であり、当クラブの数少ないチャーターメンバーでもある、津田先生がスピーチをされる筈でありましたが、何かよんどころないご用事が出来たかと言うことで、ピンチ・ヒッターを頼まれました。

この間何とか一度くらいは100%の出席をお願い致しましたが、ご承知のとおり会員が一名休まれますと、約7%のマイナスになります。勿論津田先生は出席免除になっておられますから、クラブの出席率には直接関係はありませんが、出席委員長としては出席率の100%よりも、実質的な出席を望みたいと願っています。

創立記念日といっても、それに因んだ話をするとは、経験の浅い私には困難でありますから、別の話をさせて戴きます。これもある意味では一種の記念日、人生に区切りをつける意味では最も大切な時について、若干私が普段考えていることについて話をさせて戴きたいと思えます。

人生には三つの新しい出発があります。その最初はこの世に生を受けるときであり、二番目は伴侶を求める結婚であり、最後が死であります。そのいずれもが、それぞれに新しい出発・旅立ちを迎えると

きであります。この三つの時に共通する特長は、清浄を表す「白衣」を身につけるということにあります。

御承知のとおり、母の体内からこの世に生を受けて最初に身につけるのは産衣であります。この白衣には、先に申し上げたように綺麗であるということのほかに、大変重要な意味があります。純真無垢な身体、そこにある無色なところを、これからの育て方即ち父母の感化によって綺麗に染め上げて欲しいという願いが込められていますが、又一方では穢れた身体を清くなれと願って包む意味もあります。

次に白衣を着けるのは、どなたもご承知のとおり花嫁の白無垢であります。その昔嫁ぐ女性は花嫁衣装を着て、一旦自分の家の敷居をまたいで外に出れば、再び実家には帰らぬものとされていました。現代にはあまり通用しそうにありません。

婚礼の白衣は、これから嫁ぐ家に行って染め直して貰うものであり、新しい家・新しい伴侶の家風に染めて貰うからお色直しがあります。今ではあまり何回もお色直しをするものだから、元の色が分からなくなり、正体を見失って離婚が増えているのかもしれない。その上男性までもが白いタキシードなどを着ては、わざわざ女房の尻に敷かれることを天下に公表するようになるのもあります。

三つ目は申し上げるまでもなく、この世に別れを告げるときであります。これも又、新しい旅立ちであります。白衣・手甲・脚はん、傘と杖は旅への姿であります。私達が普段着ている衣を「穢色のころも」と言い、白が少しずつ汚れて鼠いろになる、

或は黒が少しずつ色褪せてこれも又鼠色になる、これが穢色すなわち汚れたいろ・中間色であります。白衣が長い間の修行によって変わる状態を現しています。従って、死者の白衣には、十分修行を積んでほしいという願いもまた込められています。

我々の社会には「はれ」と「け」の二つの儀式があります。「はれ」はいわゆるお目出たい儀式をあらわし、「け」はその反対で前者は婚礼、神まつりなど、後者は出産、寺まつりに大別されておりました。

出産は、特に女性の血を見るということで、神を祭る母屋では厳禁され、生まれた赤子も、お七夜がすんで宮参りを済ませなければ家に戻ることは出来ませんでした。これは、一つには生まれたばかりの不安定な命は、いつ黄泉の國に引き入れられるか分からぬ不気味なもの、生を見極め血のけがれを、神によって清めなければならないものでもありました。そこで清めるのは、赤子だけではなく同時に母親をも清めるのでありますが、お宮参りにこんな意味があるのを知る人はいなくなったようです。

「け」はいわゆる凶事であるために、その時に身につける着物は、白に対する黒を使用することになります。これが今一般に使用されている喪服であります。黒は影の部分、隠れることを目的にしていますから、家紋をつけるなどはしないのが普通でありました。

最近、一種の流行？或はおしゃれ、又は知らぬがためにネクタイに家紋を入れたものを使用しているのをよく見掛けますが、これは喪服に似て喪服にあらずということができましよう。

今、テレビで武田信玄が評判であります。戦いの時につける旗指物にはすべて家紋が付けられています。家と家との戦いであると同時に、敵味方を識別するためのものでもありました。そう考えると、人の不幸に旗指物を背負っていくような感があります。

目立たないように、自分が不幸に巻き込まれない

ようにというのが、喪服本来の用途でありますから、本当はアクセサリなどは一切無用でありましよう。

創立記念日とはいささか無縁の話になりましたがピンチ・ヒッターの故をもってお許し戴ければ幸いです。

## ビ ジ タ ー

鶴岡西R.C 加藤 有倫君  
" 三井 盾夫君  
" 佐藤 修弥君

## お詫びと訂正

先週の会報の中でスマイルの項で、山口篤之助君の「篤」が違っていました。訂正してお詫びいたします。

